





一衣成 中上

永世比

衣の染りきつてせむく及まぐ衣は

一服松目いふく油や色乱れと梅樹本とわき

梅新てうりしうりうりぬき也地色黒く衣は

色をくまなくとわのぬき衣もくすもてうり

衣はぬきぬきけりぬき佛と油にありしは作

は油にぬきぬきぬき佛ありしは佛と梅

まぬきぬきぬきぬき佛ありしは佛と梅

ぬきぬきぬきぬきぬき佛ありしは佛と梅

ぬきぬきぬきぬきぬき佛ありしは佛と梅

ぬきぬきぬきぬきぬき佛ありしは佛と梅

ぬきぬきぬきぬきぬき佛ありしは佛と梅

國を成と打又を成作とてお高國は同根に成り
湯島は夜備と打二代目也前地のあはげかよき
のは一人ありて下めはなりん

^{中上}一助平 曰此 ちりの番初とてはしお乱母のともせ佛

とわらぬの番則宗よぬらぬ根柢地を思ひありて
まゝに母を向せまゝにわらぬとてなすて子あはれ
れをけ他は能佛とて切せつてまやうに唐を也切せや
まつめ也同根に代ありてえいともてりたは方まてり

ゆか國助平と打平の字平は寄るるに前地也思直

^{中上}遠新 唐肉

一助包 曰此 ちりの番初とてはし唐を也切せつてま

や也根柢地を思ひてともくえあり大とま
ふ根とてさへはちりの後し乱母の思と佛くやと今
他は佛勝母と唐く佛とあり母を也但ちと物
根まゝにわらぬ也ありこれ一系根を係る此の根柢
ぬけ丸の他も是同根に文字が子小わり是は母の海
父は思ひぬる也又大根の助包ありいといふ人ありは
次第に芳まじり初は根柢國と打中助包作と打後
は大根よぬらぬげてと字打也

^{中上}一也平 唐肉 ちりの番初とてはし唐を也切せつてまやうに唐を也

根目いふはともは也地を思ひてはまあり小乱母と後
いはして小是あり地を思ひてはもあり也母といはれ

と梅くちとわつ。ゆか園包平とわつと。河内船津
つすめめつ。古梅あさる。二子船の包平。河内
秦包平。らぼ。お茶やう。唐壺。又。佛後。勝本と
乳。み。ふう。く。し。を。梅。て。為。き。也。来。園。行。を。い。ん。船。を。り
地。を。も。あ。く。は。い。ら。り。み。ら。白。梅。包。平。の。み。ら。こ。も
そ。と。も。こ。も。こ。も。こ。も。こ。も。佛。の。い。ま。ま。也。能。く。と。代。て

見ぐー

「十」は「三」字のなりの
十は扁也妙のなりは清いなるの正桓のこ

一正桓 永長

古刃の塗りそく。唐中切先つ。ま。や。の
よ。能。梅。目。い。う。こ。ま。う。也。比。ら。こ。も。あ。ま。う。大。ぶ。こ。な
ふ。乳。み。の。豆。と。沸。く。や。ま。こ。入。系。他。地。佛。あり。み。ら。こ。も
ま。こ。い。わ。も。も。え。ぬ。か。い。地。付。あり。あ。ら。也。梅。あ。り

同乳三あり。初は。は。な。り。よ。入。系。二。代。目。ハ。子。新。他。入。る
小。乳。み。と。こ。の。こ。も。梅。船。と。も。佛。あり。の。め。き。也。二。代
目。ハ。有。画。が。も。也。是。し。と。も。也。古。刃。付。塗。り。そ。く。志。の。あ
せ。ぐ。こ。ひ。し。地。を。い。う。こ。も。勝。本。と。小。乳。み。よ。梅。あ
ま。か。ら。も。上。唐。壺。又。と。梅。切。先。乃。肉。と。壺。み。に。か。じ
と。梅。こ。塗。よ。梅。初 中上 中 中 ぼ。上。右。の。外。異。正。桓。と。て
二。余。の。い。ま。ま。園。よ。み。入。系。梅。中。執。は。乃。正。桓。と。く。之
て。ま。七。種。乃。智。あり。也

一庭房 元慶

古刃の塗りそく。梅。と。は。こ。も。梅。う。と。地
ふ。切。先。つ。ま。わ。た。唐。中。さ。な。い。梅。目。地。を。唐。壺。あ。り。み
え。て。是。し。丁。子。と。も。大。ぶ。こ。よ。乳。み。も。や。く。也。佛。と。梅。あり

一吉元 文書 吉乃の婆音房よぬりサ夫のさいり
乱ぬとやを丁子母とやけらぬ乃清の事さあ
也。母乃心と音房ふ能ぬり。又堅くあさむわりの
よ碧ゆまほし。初乃音房う子也

一貞真 貞は 一文字敷さりのあまじし まじ
清せづく切先つまやえん音房。能指目らふと海や
是地ちこくう一のいま母と梅。勝母とあつてや
他也。母乃堅くわよめ也。母とりりはよ音房と梅也
丁子母とやとままも也。梅打のわつとらりて母と
ひらく梅也。かりの也。母よ。梅とサやと海は。母
まわらりころやう也。母。佛はあたる能ぬらと梅也

一剛房 兼名 吉乃の婆音房よぬりサ夫のさいり
清らさえて母と色あり。比とあつて丁子母の太さ
なるとままのあつ乱ぬよまさせて梅也。丁子母乃乱と
地へ清くやと入て。お乱といらえて。氣氣とやと母と
一い他よ意 わ 母のわらり。海とてう勢あり

一助真 貞音 吉乃の婆音房よぬりサ夫のさいり
まやと也。能指目。海とる音也。音乃能治助成つて
よりよと也。母乃清大文字中能ぬり。大乱と梅。母
乃と也。能ぬらとやう。ままもとあつて。母とやと
清らむわりの地ちこく。又色まめ也。能音乃母とりそく
やまもと也。能指目 まじ 清つてまやと也。助真也

丁子みとけりしは梅也ゆとあるはたはるにけり
 おわつたありの地鉄もははしあけきり
 一長光 永仁は ちりの海光也 同 梅と好むの
 ことありとゆ也 殆ゆると長光 君中 梅相目いふに
 色也 飛とては地鉄あり 丁子み乃とては丁子
 叩りて飛くといふはしりなりとては梅也 梅を
 と丁子み乃大也といへて先人の廣也 且よおれ乱也
 き入まると切先乃肉も乱也 ちりり色あつ作也 父
 ちりり色あつ作也 刀ハ下平也 げ地よ 殆るははしり
 ちりしあり 長光と打ちつるなりとては長光あり 三代目
 左を將監長光といふちりの海光とては長光とては梅也

父長光と因ああるは膚粒とま也 地ふえりるは
 乱ぬわりの細虫ぬと焼丁子みいふ也 但廣也な
 と乃些事也 ちりりいしげ作りのと多く 殆る也 刀乃
 海かたねわつと書とをよとてはとせとてはしりしておれ
 ぬおりの細虫ぬと焼也 割梅切肉と好むなり也
 一長光 永仁は ちりの海光とありて 殆とせとては角小
 ゆる 膚粒と切先つとまや也 飛相目いふありと海也 地
 色とてはと白ありとてはちりり色也 殆るははしり色と
 ぬ乱と梅り然ちりよとてはちりり色也 丁子みと
 ぬぬ乱の地鉄とてはちりり色とては梅也 好むとては
 ちりり色とてはちりり色とてはちりり色とてはちりり色

剣梅林ツルギ字とくればるまひけ後たる刀切ツルギのツルギを
重なりやま也

一魚光 建書 ちりの清く廣く。唐紅カラコ切先のびり

大畷梅とわ。肝ツルギがみ分ツルギりたるをぬくめふす。能

板目地たるはめよ白さるくわのしゆ乱ツルギめと梅ツルギ子

はまま也。京光よちりいふなり。能乱ツルギめと梅ツルギ切

廣重ツルギよちり是乃入ふはとわのしゆ。可ツルギの能

切りよして膚ツルギわつめ也。可ツルギの清く京光よちりしゆ。能

うとく。とくを考くゆらふらふ。能ツルギ目あり能ツルギわつ

らりあふ也。倫光師光い魚光よいり。能ツルギ倫光

よいり。能光よ父乃京光よいり。能乱ツルギ也のしゆ

わりのしゆ也。能ツルギも梅とわ。能光よいり。能光

が梅ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。

能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。

能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。

能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。

能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。

能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。

能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。

能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。

能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。

能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。

能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。能ツルギわつ。

小足とて入て梅也。佛とつり。ち乱母もあつた。又ち二馬じ
海^{うみ}の^{うみ}も^{うみ}也。然^{しか}に^に言^{こと}表^{あらわ}目^め黄^{わう}元^{げん}下^げひ^ひの^の方^{かた}は^は貞^{てん}次^じ
と^と打^うや^やと^とり^り大^{だい}と^とり^りひ^ひ。先^{せん}山^{さん}飛^ひ回^{かい}流^{りゅう}な^なも^もあ^あり^りの^の也^{なり}也^{なり}
梅^{うめ}び^び他^たの^の刀^{たう}と^とし^し他^たの^の飛^ひより^りく^くわ^わり^りて^て也^{なり}也^{なり}。流^{りゅう}を^を
去^さ流^{りゅう}は^は海^{かい}中^{ちゆう}國^{こく}恒^{こう}大^{だい}陽^{やう}指^し女^{にょ}年^{ねん}貞^{てん}次^じと^と打^う。但^た貞^{てん}次^じと
ど^どり^り打^うす^すし^しの^のま^まど^ど次^じ乃^の字^じの^のつ^つら^らと^と替^かり^りあ^あり^りと
物^{もの}ふ^ふ交^{かう}

恒^{こう}次^じ 具^ぐ 高^{こう}飛^ひ流^{りゅう}去^さ乃^のの^の流^{りゅう}そ^そり^りま^まく^くと^とじ^じを^を。飛^ひ極^{ごく}
目^め地^ちも^もつ^つま^まく^くと^とら^らあ^あり^りと^と流^{りゅう}く^くと^とい^いの^のも^もふ^ふ乱^{らん}母^ぼ流^{りゅう}
や^やく^く。女^{にょ}色^{しき}あ^あり^りと^とし^し。流^{りゅう}く^くと^とえ^えて^て海^{かい}尋^{じん}き^き也^{なり}也^{なり}。帶^{たい}表^{あらわ}目^め
黄^{わう}元^{げん}乃^の下^げ。下^げ字^じ流^{りゅう}も^もた^たび^びや^やく^く打^う。日^{にち}流^{りゅう}あ^あま^まく^くと^とい^いの^の

恒^{こう}乃^の字^じの^のは^はく^くり^り替^かり^り。と^とら^らう^うひ^ひや^やと^とり^りを^を山^{さん}形^{けい}
一^{いち}心^{しん}恒^{こう} 表^{あらわ}私^しに^に 律^{りつ}中^{ちゆう}恒^{こう}と^とま^ま乃^のの^の流^{りゅう}す^すま^まく^く反^{はん}さ^さり^り。飛^ひ極^{ごく}目^め
い^いら^らし^しこ^こま^まう^う也^{なり}。乱^{らん}母^ぼふ^ふひ^ひり^りく^く梅^{うめ}ひ^ひら^らと^とま^まく^く。地^ち色^{しき}い^いら^らく^く
み^みち^ちい^いま^まく^くして^{して}。と^とら^らう^うじ^じ忠^{ちゆう}と^とり^り。楨^{てい}肉^{にく}流^{りゅう}ハ^ハ日^{にち}黄^{わう}
元^{げん}の^の下^げも^も打^う也^{なり}

一^{いち}心^{しん}次^じ 斤^{しん}中^{ちゆう}と^とま^ま乃^のの^の流^{りゅう}も^もあ^あり^りと^と菴^{そう}流^{りゅう}く^く。切^{せつ}先^{せん}の^のひ^ひを^を
も^も。下^げ字^じふ^ふひ^ひり^り乱^{らん}も^もや^やく^く。葉^{えつ}も^もや^やく^くに^に合^あて^て。大^{だい}二^に字^じも^も海^{かい}
に^にあ^あり^り也^{なり}。但^た母^ぼ先^{せん}き^きり^りと^とし^して^て。廿^{にじゅう}流^{りゅう}も^も乃^のと^と好^{こう}く^く他^たの^の忠^{ちゆう}と^とり^りが
も^も。大^{だい}忠^{ちゆう}流^{りゅう}。高^{こう}山^{さん}律^{りつ}中^{ちゆう}國^{こく}家^け次^じ作^{さく}と^と打^う。又^{また}二^に字^じ流^{りゅう}も^も
也^{なり}。律^{りつ}中^{ちゆう}の^のち^ち乃^の乃^の大^{だい}一^{いち}極^{ごく}乃^の流^{りゅう}也^{なり}。流^{りゅう}數^{すう}あ^あり^りの^の先^{せん}列^{りつ}も^も
替^かり^りも^もあ^あり^り也^{なり}。ま^まる^るる^るに^によ^よひ^ひん

右ノ介 安次 高江一徳之祖は幼名大郎 俊次 高江治
 次者 日船幸久 貞次 高江治の次子 秀次 高江治の次子 忠次 高江治の次子
 包次 次頼 直次 高江治の次子 宗次 忠次 次秀 次依
 時次 吉次 高江治の次子 助次 高江治の次子 恒次 高江治の次子 守遠 高江治の次子
 次弘 為次 次俊 久次 高江治の次子 守遠 高江治の次子
 國次 重次 弘次 直次 守次 行次
 則高 妹尾 形部 常侍 中一 派の祖は幼名大郎 高江治の次子 依り
 常を 時真 高江治の次子 正恒 高江治の次子 恒信 高江治の次子 恒真 高江治の次子 常依
 康恒 安恒 安恒 國秀 是重 重素 行忠
 業高 為信 行利 在弘 弘恒 安家 真景
 真行 高江治の次子 量重 安弘 有弘

△依は物三原乃大祥。福とにせらく高江治。高江
 とる。船板目とらたなも自と刀とら地をた
 つ下してと由めよもつあつと忠又つら佛ふた
 といふ人福光母依りやぶあつと忠又つら佛ふた
 及てつらあつと忠又つら佛ふた
 かつて佛は。刀高江治あり高江治ありとこの
 地層もやと忠又つら佛ふた
 かつてあつと忠又つら佛ふた
 飛龍の常表常表常表
 一正家 貞次 高江治の次子 高江治の次子 高江治の次子 高江治の次子
 せづく高江治の次子 高江治の次子 高江治の次子 高江治の次子

めくどちくけり。こもせしむらこころあり。祝母の
 やちつるのあはし。佛とていふもあはれ也。但縁中と祝
 母とていふは。ひの恵母とていふは。さくらの海を
 けり。あはれなる。然ていふは。佛中なるの姿よ。似る
 ぬ。色もあはれ。鉄色堅く。がけし。といふ。くとも。いし
 つぐやう。樹也。恵母のちのり。右國とていふ。祝母
 列位の家作と。小祝よ。常表に。打同。祝二代あり
 一正廣。在永比。ちのり。姿も。ひろく。切先。とて。考ふ。く。福
 ひき。根。板目。の。膚。は。う。に。後。地。色。白。目。也。獨。本。紙
 小祝母よ。やさして。え。ひの。恵母也。祝母の。あ。い。の。佛。か
 く。ば。ち。や。う。な。で。う。わ。し。と。も。也。考。と。も。母。乃。の。佛。也。

切先の肉の切りし。と。み。多。く。あり。と。ち。く。や。さ。り。たり。と。い
 あり。祝母の列位。位。と。常。表。と。お。大。祝。の。て。た。ひ。ふ
 ち。一。同。祝。二。代。あり。と。い。ふ。祝。母。の。て。原。祝。多。あり。海。は
 中。を。の。り。し。の。り。も。め。く。他。也。恵母と。構。う。り。も。あり
 刃。の。地。う。め。い。海。也。と。い。ふ。家。の。廣。作。の。刃。後。し。と。い。ふ。た。り
 海。ら。う。れ。の。廣。い。の。り。子。の。也。

ちのり 行者 いかに 貞家 親次 秀次 實負
 實光 正則 國正 助國 兼安 兼光 兼吉
 兼守 貞正 正通 正直 長光
 △祝母の乃。大。祝。の。ち。の。り。の。姿。その。り。も。く。考。ふ。う。根
 板目。こ。も。く。て。地。の。り。と。い。ふ。も。あ。ら。は。れ。祝。の。り。

王守心くろあふりあふりあふりと云々
 の志はさふをほ國行平作と云々
 由打平の字は中とい真よせぬも是方去有凡
 ら如く記也忠を割記い他は後忠にまらう也
 ぬり物よとらんのもつとらうがし
 中 王恒 行平が子と流るる
 飛い何とてんかこし
 ありやあしやあやうる色あり
 ぬよの心と機細母よ小宣の入りし
 印地も光あり同く地帯も
 たり地も飛約平はたうり

肉すらうしひ新記を考案

一平長盛 同書富田作 左方の清ふんりて
 地白自色よりて並ぬよ曲と機佛あり
 けあり。真のつりやと好い
 一神息 和綱は昔國を修ま 左方の清うれり
 色流せり。者様おけ。梅と好く
 色地をまもめありては
 色を考也。ぬ色白くして
 ぶくはのへるを機也。記
 忠持也。新撰下

九母ありてふもて... 九母ありてふもて... 九母ありてふもて...
九母ありてふもて... 九母ありてふもて... 九母ありてふもて...
九母ありてふもて... 九母ありてふもて... 九母ありてふもて...
九母ありてふもて... 九母ありてふもて... 九母ありてふもて...
九母ありてふもて... 九母ありてふもて... 九母ありてふもて...
九母ありてふもて... 九母ありてふもて... 九母ありてふもて...
九母ありてふもて... 九母ありてふもて... 九母ありてふもて...
九母ありてふもて... 九母ありてふもて... 九母ありてふもて...
九母ありてふもて... 九母ありてふもて... 九母ありてふもて...
九母ありてふもて... 九母ありてふもて... 九母ありてふもて...

右外 信守 豊後國 利城 日住 利孝 園純 日住
幸貞 日住 良光 日住 慶日人 安則 日住 實子
友行 日住 田住 治盛 日住 貞盛 日住 盛重 日住 盛忠 日住
鎮教 則末 肥前國 佐賀 日住 敬位 則末

吉貞 左の教 志方 日住 宣行 河橋 守 定之 志方 日住
義行 三池の教 利延 日住 利城 日住 利延子 守綱 日住
安亮 日住 平の教 安満 日住 安俊 日住 勘近 日住 吉宗 日住
行満 日住 友安 日住 宗行 日住 安利 日住 卓安 日住
近安 日住 家安 日住 安純 日住
時末 延壽の教
能次 能宗の教 能真 日住 直能 日住 重行 日住
氏房 西園舞草 日住
行真 九助の位 佐藤 日住 宗忠 九助位 佐藤 日住
生佛 一統 奥列 宗壽 日住 宗行 日住 宗行
氏久 宮井 見佛 日住

四十一

計目利書代々之難為始書秘意
之依涉執心不淺寫進の意
高純見の成乃友作

去又長拾六 亥三月十二日

萬治四年 辛 三月吉日



室町雜山町小嶋市郎右衛門板行

